

指導方法等の改善計画について (国語科)

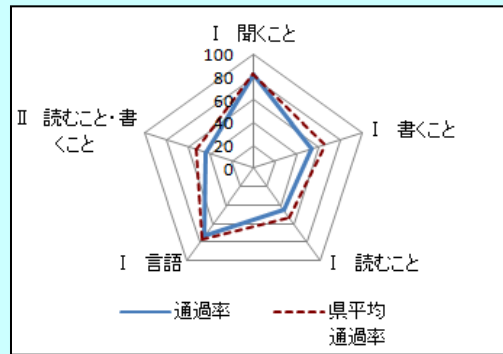
「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 61.8%, 県 68%)

対県比 90.9%

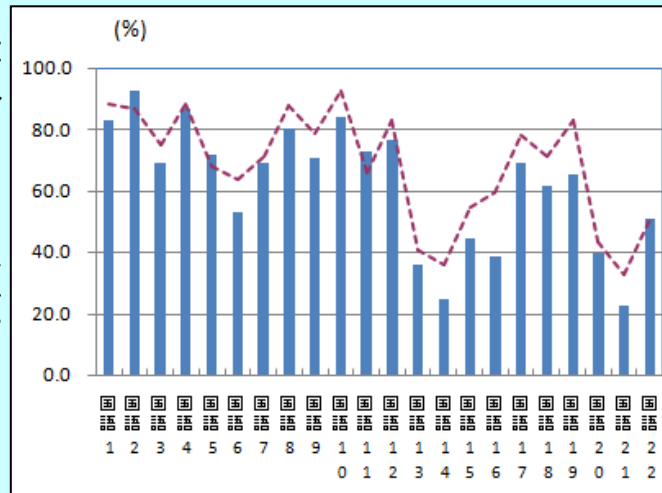
全国学力・学習状況調査 本年度正答率

本年度の結果について

領域別平均通過率



対全国比



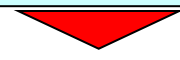
A問題	B問題
本校 74.0%	本校 61.0%
全国 74.8%	全国 57.5%
県 77.0%	県 61.0%

○全体的な傾向
 タイプI (65.7%), タイプII (44.4%)は県平均を下回っている。また、A問題は(74.0%)で全国平均、県平均を下回っており、国語の基本的な学習事項において定着が不十分な点があるといえる。ただし、B問題は(62.0%)であり、全国平均・県平均共に上回っている。活用の部分において良好な結果が出ている。

○昨年度の課題への取組の成果
 授業や問題において、自分の考えや意見、感想等を、条件をもとに書かせる場面を仕組んだことにより、記述するということに対する抵抗感は少なくなり改善が見られた。

来年度(全国学力学習状況調査)の目標値

対全国比 A105 B110%



重点課題

「基礎・基本」定着状況調査

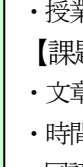
【課題1】(課題のあった設問の通過率) (24.7%)
 タイプIの「読むこと」の領域において、「叙述を基にした想像」に関する問題が通過率24.7%と低い。文章を正しく読み取れておらず、まとまりごとに要約していく力が低いという課題がある。

【課題2】(課題のあった設問の通過率) (22.2%)
 タイプIIの「書くこと読むこと」の領域において、「情報の取り出し・情報を関係付けた記述」の問題が通過率22.2%と正答率が低い。問題文の問いの中から、解答に導く重要な語句や文章を見落とさずに読み取れていないという課題がある。読み取ったことを文に表すことができていないといった課題も見られた。

全国学力・学習状況調査

【課題1】(課題のあった設問の通過率) (45.2%)
 A問題において、手紙の構成を理解し、後付けを書くという問題で正答率が低かった。手紙の後付けに必要な日付、署名、宛名のそれぞれの位置について理解できておらず課題が見られた。

【課題2】(課題のあった設問の通過率) (27.4%)
 B問題において、話合いの文章から、自分の考えを広げたり、深めたりするための発言の意図を捉える問題に課題が見られる。話合いにおける発言の意図を適切に理解することができていない。



重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】目標値 (50%) 実施後数値 () %
 ・日々の授業の中で、できごとの様子や、それを受けての登場人物の気持ちをまとめる活動をバランス良く偏りのないように行う。
 ・長文を要約する問題をチャレンジタイムで取り組んだり、授業の中で取り組んだり、NIEに取り組んだりする。
 ・授業の際の読解の時に、文章の大事なところに線を引く習慣を身に付けさせる。

【課題2】目標値 (50%) 実施後数値 () %
 ・文章から重要な言葉を見つけ出したり、問題を読んでから本文を読ませたりするなどの練習を行う。
 ・時間内にある程度の量の文章を読む練習を行い、読み取る力を付けさせる。
 ・国語科だけでなく、社会科や理科など他教科でも資料を活用し、必要な情報を取り出したり、まとめたりする活動を取り入れる。
 ・日々の読書タイムでの読書や新聞の読み取りに取り組ませたりする。

全国学力・学習状況調査

【課題1】目標値 (70%) 実施後数値 () %
 ・お礼の手紙や招待状など、定期的に継続して手紙を書く経験を積みさせることで定着を図る。
 ・授業数の少ない単元においても、各学年で確実に力を付けさせるようにする。

【課題2】目標値 (50%) 実施後数値 () %
 ・教科書や文章問題などの物語文において、叙述を根拠にして分かることを考えさせる。
 ・自分の考えを書く時に文章構成を考えさせる活動を行うなどして作文能力の習熟を図る。

※今後の改善計画は別紙

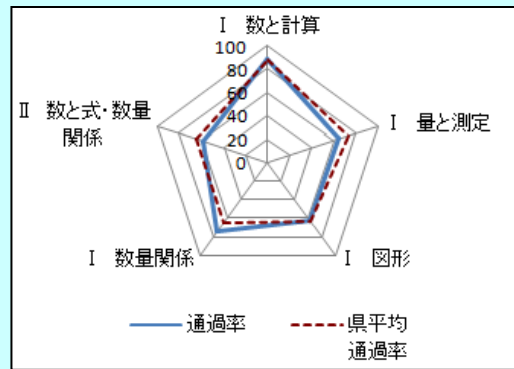
「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 71.9%, 県 74.3%)

対県比 96.8%

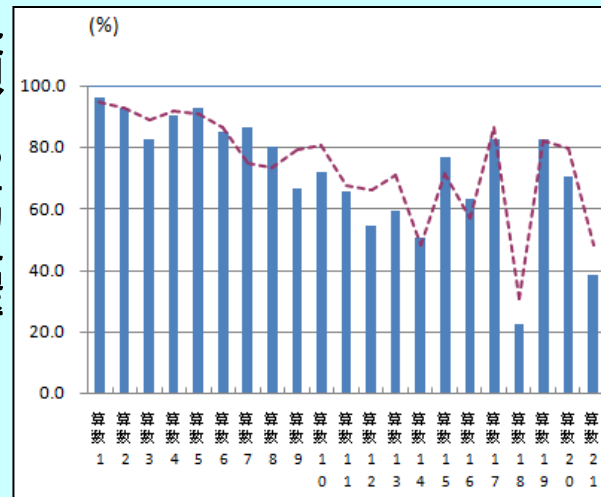
全国学力・学習状況調査 本年度正答率

本年度の結果について

領域別平均通過率



設問の平均通過率



A問題	B問題
本校 82.0%	本校 44.0%
全国 78.6%	全国 45.9%
県 81.0%	県 47.0%

○全体的な傾向
A問題(82.0%)は全国平均、県平均共に上回り、概ね定着しているといえる。しかしB問題(44.0%)、タイプI(75.8%)、タイプII(59.3)は県平均を下回り、正答率が低く課題が見られる。

○昨年度の課題への取組の成果
自分の考えや問題の解き方を論理的に考え表現させるために、ノートに自分の考えや解き方を記述させる場面や、友達と交流する場面を仕組んだ結果、記述する力や考えを伝える力は徐々に身に付いてきた。

来年度(全国学力学習状況調査)の目標値

対全国比 A105 B100%

重点課題

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】(課題のあった設問の通過率) (22.2%)

タイプIIの数と計算及び数量関係の領域で通過率が22.2%と低い。「二つの折れ線グラフの関連づけ」の問題で、問題や条件を正しく読み取れておらず、折れ線グラフの変わり方など、グラフの何に着目して回答すればよいか理解できていないという課題が見られる。

【課題2】(課題のあった設問の通過率) (38.3%)

上に同じくタイプIIの数量関係「事象の解釈と根拠の説明」の問題で通過率が38.3%と低い。題意の把握ができておらず、問題の条件が整っていないので、回答の仕方にばらつきが見られ、順序よく説明できていないという課題が見られた。

全国学力・学習状況調査

【課題1】(課題のあった設問の通過率) (24.2%)

B問題の割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶ問題において、問題文から、何を目的にしているかを読み取れておらず、目的に適したグラフを選ぶことができていない。

【課題2】(課題のあった設問の通過率) (14.5%)

B問題の割合の問題で、与えられた情報から基準量、比較量、割合の関係を捉えられておらず、基準量と割合を基に比較量を判断し、その判断の理由を書くことについて課題が

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】目標値 (50%) 実施後数値 ()%

- ・問題の読み取りや題意の把握のために、日々の授業やチャレンジタイムで文章問題に取り組みさせる。
- ・数量関係の学習において、表やグラフの数値について、言葉や文字で表したり説明させたりする場を設ける。
- ・式に表された数値を表に当てはめた数値と比べて確かめるなどの活動をさせ、式の理解を深めさせる。

【課題2】目標値 (60%) 実施後数値 ()%

- ・加法・減法などの四則計算を正確に身に付けさせるよう、各学年の内容の定着をチャレンジタイムや家庭学習で図る。
- ・大切な言葉に線を引きながら問題を解くよう指導する等、問題を解くために必要な条件を読み取る力をつけさせ、二つの数量の関係から式に表す経験を継続的に行う。
- ・証明がある問題に慣れさせ、論理的に回答させる経験を積みながら説明の仕方を習得させる。

全国学力・学習状況調査

【課題1】目標値 (50%) 実施後数値 ()%

- ・複数のグラフを比較させ、目的に合ったグラフを選ぶような算数的活動を行う。
- ・目的に合わせて、どのグラフを選べばよいかを選ばせたり、グラフごとの特徴を話し合ったりする活動を行う。

【課題2】目標値 (50%) 実施後数値 ()%

- ・情報過多の問題に多く触れさせる。その中から、情報を整理させる。
- ・各学年で、割合の問題が出てくるので、基準量が何か、比較量は何かなど割合の意味を正しく理解させ、確実な定着を図る。

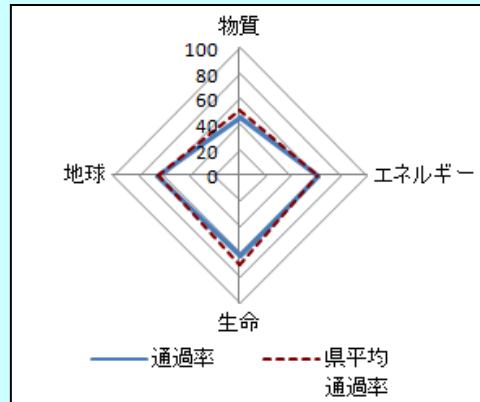
※今後の改善計画は別紙

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 58.7%, 県 61.7%)

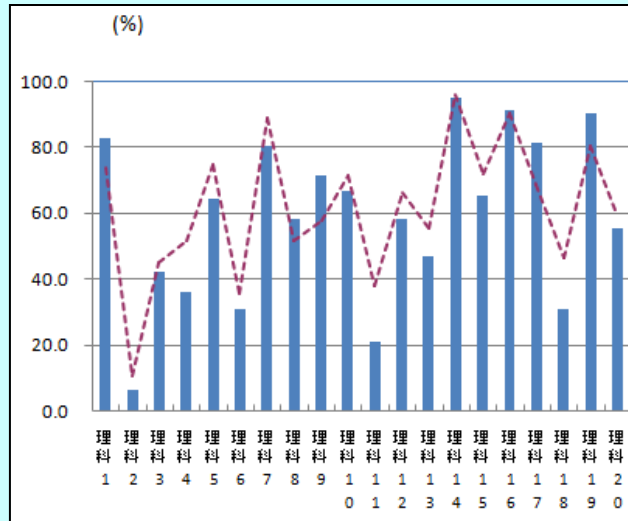
対県比 95.1%

本年度の結果について

領域別平均通過率



理科12教科別通過率



○全体的な傾向
理科の結果においては 58.7%で、県平均を下回っている。タイプⅠ(71.2%)、タイプⅡ(43.5%)と、全体的な領域において、通過率が低くなっており、定着ができていないことから課題が見られる。

○昨年度の課題への取組の成果
授業において、自分の考えや考察を表現する場面を設定することや、帯タイムに理科も取り入れることで定着を図る取組は進んでいる。ただし、「基礎・基本」定着状況調査ではまだまだ基本的な問題においても課題が見られる。

重点課題

「基礎・基本」定着状況調査
【課題1】(課題のあった設問の通過率) (6.2%)
タイプⅡの物質の領域で、「適切な検証方法の選択」の問題の通過率が低い(6.2%)。問題文から実験の意図や理由が読み取れておらず、解答することができない。児童の経験が少なく、そこから応用的な考えができていない。問題から条件を満たすように説明できていないことが課題として考えられる。
【課題2】(課題のあった設問の通過率) (21.0%)
タイプⅠで、生命の領域の「虫眼鏡の使い方」に関する問題で正答率が低かった(21.0%)。虫眼鏡の基本的な使い方が間違っており、2通りある使い方を状況に応じて使い分ける技能に対する理解が不十分であった。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

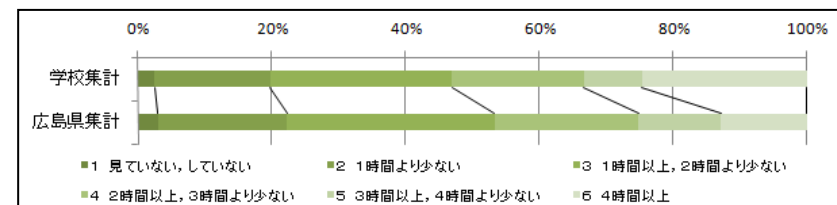
「基礎・基本」定着状況調査
【課題1】目標値(50%) 実施後数値() %
・単元の導入の場面において、閉じ込められた空気がどのようになっているか考えられること体験させる。
・実験結果や実験方法を選択する場면을授業内で取り入れ、児童自身に実験の必要感を持たせる。
・題意を把握し、考え方を記述できるように授業の中で問題に取り組ませたり、考えをノートに書かせたりする。
【課題2】目標値(50%) 実施後数値() %
・虫眼鏡の学習の際に、実際に使ったの観察を継続的に行う。その際、使い方も繰り返し意識させる。
・3年生の虫眼鏡の学習後に、4~6年生でも継続して実験・観察に活用させて経験を積ませる。

※今後の改善計画については別紙

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査）

(1) 生活・学習

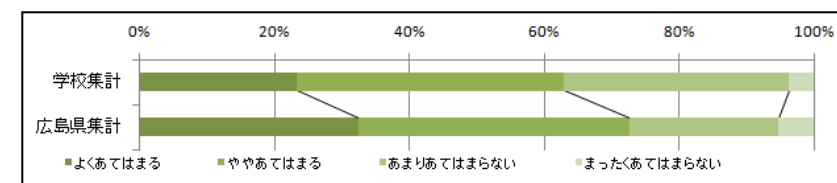
ふだん（月曜日～金曜日）、1日何時間くらいテレビを見たりゲームをしたりしていますか。



児童の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
生活週間については、ふだん1日に4時間以上テレビを見たり、ゲームをしたりする児童が24.7%、3時間以上、4時間より少ない児童が8.6%であった。	<ul style="list-style-type: none"> 生活振り返りカードの項目に入れ、その都度学級担任が指導する。 学級懇談、通信等を利用して保護者へ家庭での学習習慣を付けさせるよう促す。 	全学年	肯定的評価 70%以上	児童アンケート	9月 12月 3月		

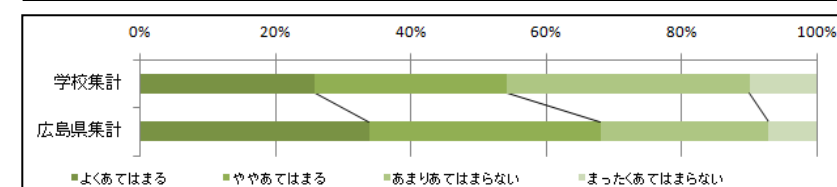
(2) 教科

国語の授業の中では、伝えたいことの手をしっかりとらせ、組み立てを考てて文章を書いています。



児童の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語 伝えたいことの手をしっかりとらせ、組み立てを考てて文章を書くことができない。（できる63.0%）	文章構成に留意しながら書くことを習慣化させるために、学年に応じて、日記や作文等で日常的に指導する。	全学年	肯定的評価 75%以上	児童アンケート	2月		
算数 解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明する児童の割合が低い。（している54.3%）	自力解決の際に、自分だけが分かるノートではなく、友達に分かりやすいように、ノートを整理する工夫をさせる。また、集団解決で考えを説明させる際には、聞き手の理解を確認しながら話すよう習慣化させる。	全学年	肯定的評価 70%以上	児童アンケート	2月		
理科 自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりする児童の割合が低い。（している58.0%）	昨年も課題であったが、本年度は10.4ポイント肯定的な児童の割合が増えた。昨年に引き続き、実験・観察の結果をまとめる時間を確保する。また、児童に結果についての考察を文章で書かせ、考えを交流する場を設定する。	3 4 5 6 年	肯定的評価 60%以上	児童アンケート	2月		

算数の授業では、とき方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。



理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。

